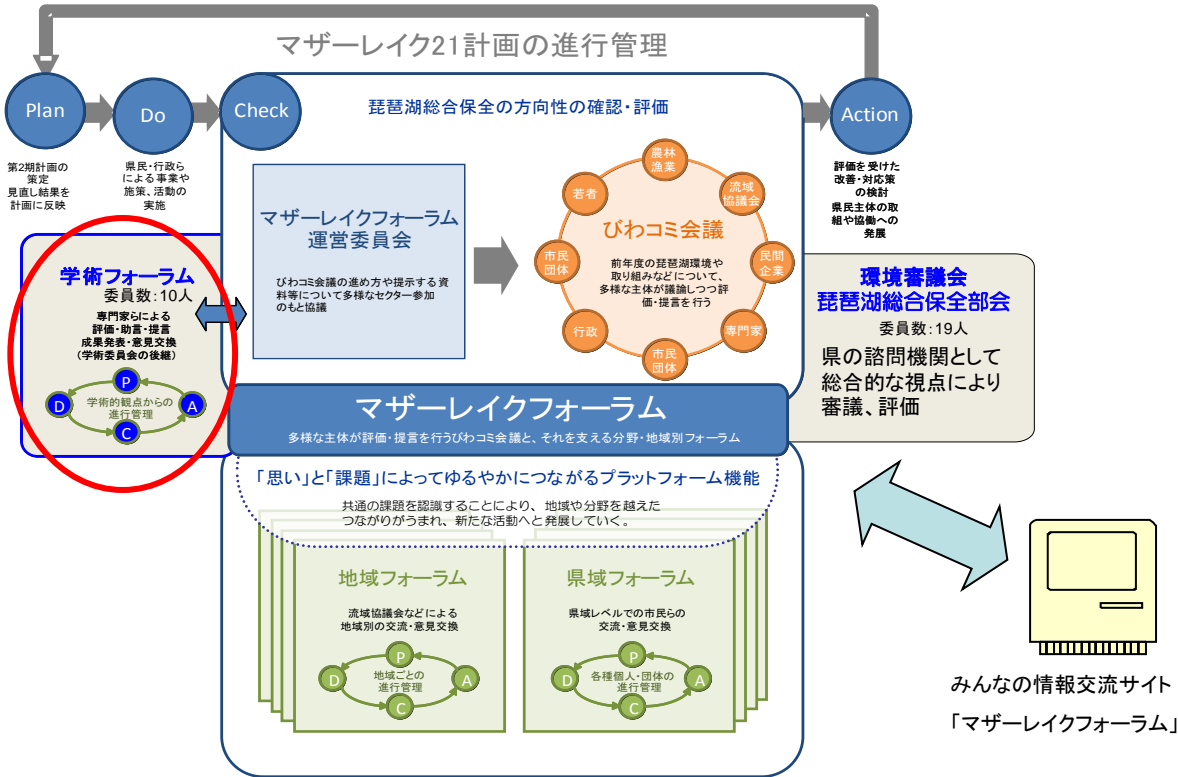


マザーレイク 21 計画学術フォーラムについて

マザーレイク21計画学術フォーラムの役割

「学術フォーラム」は、計画の進行管理の一環として、専門家が琵琶湖と流域の状況を、指標などを用いて整理・解析する役割を担います。



第3回学術フォーラム(2014/7/16)の結果概要

■「各種指標および関連事業の状況」について

マザーレイク21計画関連指標の平成25年度末の状況および平成26年度関連事業の概要を報告。

(主な意見)

- ・底質や水位に関する指標を追加し、各種指標との相関関係を整理すべき。
- ・生物多様性の状況をより把握できるよう、新たな指標の追加を検討すべき。
- ・農業や林業に関する指標について、地域単位で示すことができないか検討すべき。
- ・各指標の情報提供のあり方として、分かりやすさ・メッセージ性の視点も必要。

■「各種指標の結果のとりまとめ方法」・「指標間の関連性の整理状況」について

多様な分野の状況を総合的に把握するため、各指標間の関連性の整理状況やその評価方法について報告・提案し、概ね評価された。

(主な意見)

- ・物質収支については、より精緻に比較できるよう今後検討すべき。(現在と過去、北湖と南湖、内湖と本湖、水深ごとの比較等)
- ・マザーレイク21計画では、「暮らしと湖の関わりの再生」に取り組むこととしていることから、県民の暮らしや活動が、琵琶湖の再生にどのように寄与しているかが見えるよう工夫すべき。